

書誌第101号追

本州南・東岸水路誌

追補第4

令和4年（2022）7月15日発行



海上保安庁

本州南・東岸水路誌

追補第4

この追補は、令和2年3月刊行の本州南・東岸水路誌の記載事項を更新するもので、令和4年6月24日までに入手した資料を基に編集したものです。

追補は、更新情報を記載した「本文」と、それを検索するため、ページ番号等を記載した「索引」から構成されています。

「索引」については、更新箇所の表題や港名等を記載し、ページ番号順に並べています。

「本文」については、本追補の更新箇所は、灰色背景で赤色文字にて示しています。

【】で囲んだ内容は、削除や差し替えを行うことを意味しています。

図の挿入等によりページ内に収まらない場合は、水路誌本誌とのページ番号を整合させるため、追補においては、便宜的に枝番号を付しています。

令和4年7月15日

海上保安庁海洋情報部

注 意

海上保安庁は、各国が発布した諸法規、宣言、海図及び水路通報・航行警報並びに船舶等からの視認報告のうち、船舶交通の安全の確保と海洋環境の保全という観点から、航海の安全及び環境保全に影響を与える可能性のある情報については、水路通報及び航行警報により周知するほか、海上保安庁の海図その他の航海用刊行物にも掲載するようにしています。

これらの情報を利用するにあたっては、海上保安庁によるこれらの情報提供は、航海の安全等のための利用を目的としており、その内容は日本政府がこれらの諸法規、宣言等を承認したことを意味するものではない点に留意してください。

ページ	更新箇所(表題、港名等)	備考
35	水路通報	
36	ウェブページによる情報提供	
45	東京湾～津軽海峡 航行上の注意	
46	東京湾～津軽海峡 航行上の注意	
71	八戸港	
106	石巻港	
116	鶴ノ尾崎～塩屋崎	
117	鶴ノ尾崎～塩屋崎	
222	横須賀港 第1区～第4区	
223	第43図 横須賀港米軍施設水域図	
235	熱海港	
236	伊東港	
420	沖ノ鳥島	

第 9 章 危険情報の入手方法

海上保安庁は、航海の安全確保のために必要な海図、水路誌などを刊行するとともに、これらの刊行物を最新維持する情報や船舶交通安全に必要な情報を提供している。

5

水路通報

水路通報 水路図誌を最新のものに維持するための情報並びに船舶交通安全に必要な航路標識の変更、海上における工事・作業、自衛隊あるいは米軍等が実施する射爆撃訓練等に関する情報を、ウェブサイト及び印刷物により、日本語及び英語で週 1 回発行している。

10

管区水路通報 管区海上保安本部の担任水域及びその付近の地域に密着した船舶交通安全に必要な情報を、ウェブサイト及び E-mail により、原則として毎週 1 回及び随時に提供している（日本語、必要に応じて英語を併記）。

航行警報

15

NAVAREA XI 航行警報 世界航行警報業務の規定に基づく第 XI 区域（北太平洋西部及び東南アジア海域）に係る船舶交通安全のために、緊急に通報を必要とする情報をインマルサット静止衛星を利用した EGC システム（高機能グループ呼出し）によって提供（英語）しているもので、専用の自動受信機により情報を入手できる。また、この情報はウェブページでも提供している。

特に、緊急性の高い情報（海底火山活動、機雷漂流、人工衛星等飛行物体の落下、航路障害物の存在等）については随時送信している。

20

NAVTEX 航行警報 日本の距岸約 300M 以内の区域に係る船舶交通安全に必要な情報のうち、緊急に通報を要するものを NAVTEX 放送により提供しているもので、専用の自動受信機により情報を入手することができる。また、この情報はウェブページでも提供している。

この水路誌記載区域における、放送スケジュールは次表のとおりである。

海岸局	識別符号	種 別	電波の型式・周波数	定時放送開始時刻 (JST)
釧 路	K	日本語	F1B 424kHz	0208 0608 1008 1408 1808 2208
		英 語	F1B 518kHz	0240 0640 1040 1440 1840 2240
横 浜	I	日本語	F1B 424kHz	0134 0534 0934 1334 1734 2134
		英 語	F1B 518kHz	0220 0620 1020 1420 1820 2220
門 司	H	日本語	F1B 424kHz	0117 0517 0917 1317 1717 2117
		英 語	F1B 518kHz	0210 0610 1010 1410 1810 2210

25

地域航行警報 管区海上保安本部の管轄区域及び海上保安部の担任水域並びにその付近海域を航行する船舶の安全のために、緊急に通報を必要とする情報を、最寄りの海岸局から無線電話で提供（日本語及び英語）している。また、ウェブページでも提供している。

海岸局	呼出名称	電波型式及び周波数	再送信開始時刻 (JST)
塩 釜	しおがまほあん	F3E 156.8MHz	10 時 32 分 40 秒 16 時 32 分 40 秒
横 浜	よこはまほあん		10 時 20 分 00 秒 16 時 20 分 00 秒
名古屋	なごやほあん		10 時 10 分 00 秒 16 時 10 分 00 秒
神 戸	こうべほあん		10 時 32 分 40 秒 16 時 32 分 40 秒

日本航行警報 太平洋、インド洋及びその周辺海域を航行する日本船舶の交通安全のため、緊急に通報を必要とする情報を、ウェブページで提供している。また、(一社)共同通信社の船舶向けファクシミリ放送及び(一社)全国漁業無線協会の漁業無線局からも提供している。

特に、緊急性の高い情報(海底火山活動、機雷漂流、外国紛争行為、人工衛星等飛行物体の落下、その他船舶に緊急かつ重大な危険を及ぼすおそれのある事項)については、随時ウェブページに掲載する。

ウェブページによる情報提供

水路通報、航行警報及び灯台表第1巻追加表、~~水路誌追補は、ウェブページでも入手できる。さらに、沿岸海域における航行警報は、携帯電話でも入手できる。~~

- 10 水路通報 URL <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/TUHO/tuho/nm.html>
 航行警報 URL <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/TUHO/keiho/navarea11.html>
 灯台表第1巻追加表 URL https://www1.kaiho.mlit.go.jp/TUHO/shoshi/toudai/j_toudai.html
~~水路誌追補 URL <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/TUHO/shoshi/tsuiho/supplement.html>~~

15 各管区海上保安本部及び部署等では、航海の安全情報及びイベント等の最新情報をウェブページでも提供している。

管区海上保安本部等ウェブページ

海上保安本部等	U R L
第二管区海上保安本部	https://www.kaiho.mlit.go.jp/02kanku/
第二管区海上保安本部海洋情報部	https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN2/
第三管区海上保安本部	https://www.kaiho.mlit.go.jp/03kanku/
第三管区海上保安本部海洋情報部	https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN3/
第四管区海上保安本部	https://www.kaiho.mlit.go.jp/04kanku/
第四管区海上保安本部海洋情報部	https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN4/
第五管区海上保安本部	https://www.kaiho.mlit.go.jp/05kanku/
第五管区海上保安本部海洋情報部	https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN5/

海の安全情報

20 海上保安庁では、プレジャーボート、漁船等の船舶運航者や磯釣り、マリンレジャー愛好者の方々に対して、全国各地の灯台等で観測した気象・海象の状況、海難の発生などの緊急に周知する必要がある情報をリアルタイムに提供する「海の安全情報」を全国の海上保安本部等で運用している。

「海の安全情報」では、海上における安全のより一層の向上を目指して、船舶交通の安全のために必要な情報を使いやすく、分かりやすい形に分類、整理し、インターネット及び電子メールを通じて提供している。

25 URL <https://www6.kaiho.mlit.go.jp/>

海流

区 域	概 要
野島埼～犬吠埼	距岸 30～40Mから沖合は、黒潮の領域で 1～4kn の北東流となっている。 勝浦以南の沿岸付近では、黒潮がかなり接岸して北東～東の強流となることがあるが、勝浦以北の沿岸では、流向はまちまちで 1kn を超えることは少ない。
犬吠埼～金華山	黒潮、津軽暖流及び親潮が複雑に交錯する海域で、各海流の勢力の消長により北流又は南流に変化する。特に距岸 20～30M以内では流向がまちまちで、流速は 0.5～1kn 前後であるが、ときには 2kn に達することもある。その沖合では南流が多くなるが、黒潮が北上して 1kn 以上の北～北東流になることもある。
金華山～尻屋埼	津軽海峡を抜けた津軽暖流は沿岸に沿って南下し、その沖合を親潮が南下しており、一般に南流が卓越している。流速はおよそ 0.3～2kn であるが、夏季には 2kn 以上に達することもある。 なお、鮫角以北には、時々顕著な向岸流がある。 津軽暖流は、津軽海峡を抜けた後に、沿岸に沿って南下する場合と尻屋埼の東方 60～80M付近まで達してから南下する場合がある。一般に後者は夏・秋季に多く流速も強い。その東側には北海道南東部の沿岸に沿って南下してきた親潮があり、津軽暖流と並行して南下している。流速は津軽暖流域で 0.5～2kn で、夏季には 3kn 以上に達することもあり、親潮流域ではおよそ 0.3～1.5kn である。

目標

地 物 名	概 位	備 考
洲 埼	34° 58.5' N 139° 45.4' E	埼端は低く灯台がある。南方又は北方から遠望すると小山が連立しているように見える。
野 島 埼	34° 54.1' N 139° 53.3' E	平らな低い埼で、西側へ約 500m 突出し、灯台がある。
八 幡 岬	35° 08.1' N 140° 18.7' E	岬頂に黒色の森がある。昼夜とも沖合からの好目標である。
犬 吠 埼	35° 42.5' N 140° 52.1' E	埼端に灯台がある。岬角はレーダの好目標である。
塩 屋 埼	36° 59.7' N 140° 58.9' E	埼上に灯台がある。
金 華 山	38° 17.7' N 141° 34.0' E	高さ 444m、円すい形で、東方から接近する船舶の初認陸地となる。島の南東端の鮑荒埼上に灯台がある。
鮭ヶ埼《トドガサキ》	39° 32.8' N 142° 04.3' E	低いがけの埼で、灯台及び照射灯（同灯南方約 4km の大根を照らす。）があるが、北航の際には背景に紛れて見えにくいことがある。
尻 屋 埼	41° 25.8' N 141° 27.7' E	平らの低い埼。灯台及び照射灯（同灯東北東方約 1.7km にある大根東部の標柱を照らす。）がある。

5 漁業 八幡岬南方の 200m 等深線付近において、7～10 月のイカの漁期には 100～200 隻の漁船による集団操業が行われ、勝浦沖約 2M から南方へ約 13M、東方へ約 12M の海域にて 10 月～翌年 6 月の間、200～300 隻の漁船による、キンメ鯛の操業が行われる。また、野島埼～鮭ヶ埼に至る沖合海域では、例年 11～12 月ころにサンマ棒受け網漁業が行われる。（第 1 編 総記 第 7 章 航行に関する諸注意 「漁業」の項、23 ページ参照）

10 千倉～鴨川沖距岸 2M には定置網があり、注意が必要である。

犬吠埼周辺沖合においては、各種の漁場があり、イワシ、アジ、サバ漁等は周年操業しているので注意を要する。

15 ~~航行上の注意——塩屋埼の北東方約 23M、距岸約 10M (37° 19.5' N 141° 15.8' E)、同地点の南方約 1M (37° 18.6' N 141° 15.8' E) に浮体式風力タービン発電設備 (浮体部黄色塗、黄灯付き) 2 基が設置され、その西方約 1M (37° 18.6' N 141° 14.4' E) に浮体式洋上サブステーション (浮体部黄色塗、黄灯付き、霧信号併設) が設置されている。~~

~~これらの施設の西南西方の広野火力発電所付近陸岸に至る間に海底線 (電力等) が敷設されて~~

~~いる。いずれも AIS 信号を常時発射している。~~

針路法 (第 11 図、48 ページ参照)

1 東京湾～津軽海峡

変針目標及び概位		変針点及び針路		その他
1	洲崎灯台 34° 58.5' N 139° 45.4' E	西方約 3M	160°	
2	野島埼灯台 34° 54.1' N 139° 53.3' E	正横約 7.5M	113°	
3	野島埼灯台	正横約 5M	080°	
4	安房白浜港灯台 34° 54.9' N 139° 56.1' E	正横約 4.5M	071°	
5	勝浦灯台 35° 08.3' N 140° 19.1' E	正横約 11M	041°	
6	犬吠埼灯台 35° 42.5' N 140° 52.1' E	正横約 11.5M	013°	
	(1) 鹿島港へ向かう場合			
	犬吠埼灯台	正横約 11.5M	353°	
	同灯台	正横約 7.5M	318°	
	(2) 日立港へ向かう場合			
	犬吠埼灯台	正横約 11.5M	333°	
	同灯台	正横約 7.5M	338°	
	磯崎灯台 36° 22.8' N 140° 37.5' E	正横約 3M	336°	日立港沖防波堤南灯台 (36°28.5'N 140°38.2'E) に向首する。
	(3) 小名浜港へ向かう場合			
	犬吠埼灯台	正横約 11.5M	355°	
	(4) 石巻港へ向かう場合			
	犬吠埼灯台	正横約 11.5M	004°	
	鵜ノ尾埼灯台 37° 49.4' N 140° 59.2' E	正横約 11.5M	006°	
	花淵灯台 38° 17.7' N 141° 05.1' E	110° 約 10M	353°	石巻港港口に向かう。
(5) 仙台塩釜港塩釜区へ向かう場合 (前記石巻港の針路 004° から)				
鵜ノ尾埼灯台	正横約 11.5M	357°	波島灯台(38° 18.9' N 141° 11.1' E) に向首する。	
(6) 仙台塩釜港仙台区へ向かう場合 (上記鵜ノ尾埼灯台の針路から)				
関上《ユリアゲ》港南防波堤灯台 38° 10.2' N 140° 58.1' E	101° 約 11.2M	330°	花淵灯台に向首する。仙台沖灯浮標(38° 13.4' N 141° 08.0' E)に注意する。	
7	金華山灯台 38° 16.6' N 141° 35.0' E	正横約 11M	016°	
	(1) 大船渡港へ向かう場合			
	金華山灯台	正横約 11M	002°	綾里埼灯台(39° 01.8' N 141° 51.0' E) に向首する。
	(2) 釜石港へ向かう場合			
首埼灯台 39° 06.4' N 141° 55.1' E	正横約 9M	343°	御箱埼灯台(39° 21.0' N 141° 59.7' E) に向首する。	

架橋 河原木 1 号ふ頭南部から南西方の石油基地に至る八戸シーガルブリッジ (40° 32.0' N 141° 31.5' E、高さ 4.5~5.5m、橋梁灯がある) がある。新井田川河口の第一工業港入口に、八戸大橋 (目標の項参照) がある。

最大入港船舶 2014 年 4 月 24 日、LNG タンカー TANGGUH HIRI (101,957 t、喫水 12.2m) が ENEOS 八戸 LNG ターミナル専用棧橋に着岸した。

台風・津波対策 台風・津波・低気圧による海難事故を防止するため、八戸港船舶津波・台風等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している。(問合せ先：八戸海上保安部)

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
八戸海上保安部 (八戸港長、むつ小川原港長)	0178-32-4691	横浜植物防疫所塩釜支所 八戸出張所	0178-33-5424
函館税関八戸税関支署	0178-33-0423	青森県三八地域県民局 地域整備部八戸港管理所	0178-21-2280
東北運輸局青森運輸支局 八戸海事事務所	0178-33-0718		
仙台検疫所八戸出張所	青森出張所 017-722-7687 へ連絡		

10

引船・通船 引船がある。漁港 (鮫) に通船組合があり、在泊船舶との連絡を行う。

補給 主な岸壁、物揚場で清水が、漁港 (鮫及び小中野) では氷がそれぞれ補給できる。給油船がある。

修理

造船所名	電話番号	備考
北日本造船所(株)	0178-24-4171	
八戸造船事業協同組合	0178-44-5181	

廃油処理施設

事業者名	申込先	利用時間	処理する廃油の種類	
			廃重質油	廃軽質油
青森県	新湊 3 丁目 (受入施設が 3 基ある。)	24 時間	ビルジ	
環境技術株式会社	油槽部 0178-20-2666	0800~1630	ビルジ・スラッジ・その他	

15

医療施設

名称	電話番号	備考
八戸市立市民病院	0178-72-5111	
労働者健康福祉機構青森労災病院	0178-33-1551	

海上交通 苫小牧に至るカーフェリー便 (10,536 t 他) がある。また、室蘭に至るカーフェリー便 (7,005t) が寄港する。

20

水先 仙台湾水先区水先人会に要請する。(第 1 編 総記 第 6 章 水先、12 ページ参照)

入港上の注意

- 1 公共岸壁(水深 4.5m 以上)は、ほぼ利用が可能となっているが、入港する場合には、事前に港湾管理者等から港湾施設等について詳細な情報を入手すること。
- 5 2 港内には険悪物が散在しているので注意を要する。

針路法

工業港 港口に近づいたら、石巻港雲雀野防波堤灯台(38° 23.9' N 141° 15.9' E)とその西方約 400 mにある石巻港第 1 号灯浮標との間の水路中央を同防波堤に並行して進む。同防波堤は、接近しないと確認できないことがある。

- 10 内港 旧北上川の中央を航行すればよいが、河口の水深は絶えず変化している。また、河口の東・西防波堤は高潮時に没することがあるので注意を要する。

漁港 石巻漁港導灯(38° 24.9' N 141° 20.8' E(前灯、後灯共)、2 灯一線 000.6°)を進む。次に、西防波堤に並行して進み、船だまり内に向かう。

錨地 検疫錨地は、雲雀野防波堤灯台の南東方にある。

15 港湾施設

名称		概位	長さ(m)	水深(約m)	係船能力(D/W×隻)	備考
南浜ふ頭	大型 棧橋	38° 24.8' N 141° 16.4' E	165	11	15,000×1	
	10,000 t 岸壁	38° 24.9' N 141° 16.5' E	165	9	10,000×1	
	5,000 t 岸壁	38° 24.9' N 141° 16.6' E	130	7.5	5,000×1	
潮見ふ頭 1~5 号岸壁		38° 25.1' N 141° 17.1' E	290	4.5	1,000×5	一部工事中未測箇所あり
日和ふ頭	1~5 号岸壁	38° 25.1' N 141° 16.6' E	380	2.5~3.5	1,000×5	
	6 号岸壁	38° 25.0' N 141° 16.4' E	165	10	10,000×1	
	7 号岸壁	38° 25.1' N 141° 16.4' E	185	9.5~10	15,000×1	
大手ふ頭	1・2 号岸壁	38° 25.2' N 141° 16.3' E	260	7.5	5,000×2	
	3~5 号岸壁	38° 25.2' N 141° 16.1' E	320	5.5	2,000×3	
中島ふ頭	1 号岸壁	38° 25.1' N 141° 16.0' E	130	5.5	2,000×1	
	2・3 号岸壁	38° 25.0' N 141° 16.0' E	372	10	15,000×2	
	1,000 t 岸壁	38° 24.9' N 141° 16.0' E	60	7.5	1,000×1	
雲雀野中央ふ頭	1 号岸壁	38° 24.3' N 141° 17.2' E	260	13	40,000×1	
	2 号岸壁	38° 24.4' N 141° 17.1' E	260	13	40,000×1	
雲雀野北ふ頭		38° 24.5' N 141° 16.9' E	170	5.5~9	12,000×1	
石巻漁港	-7m 岸壁	38° 24.7' N 141° 20.0' E	1,481	5.5~7	—	魚市場がある。
	-6m 岸壁	38° 24.7' N 141° 19.2' E	1,157	5~6	—	
	-7m 棧橋	38° 24.6' N 141° 19.9' E	716	5.5~7	—	

上表のほか、内港に水深 4.5m 以下の物揚場、棧橋があり、工業港には会社専用の係船施設がある。

係船浮標 南浜ふ頭大型棧橋の南側に係船浮標がある。

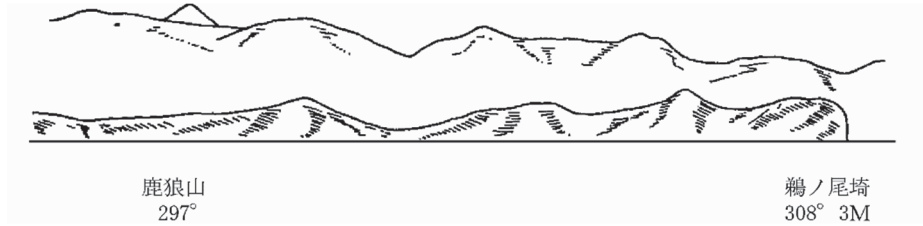
架橋 旧北上川河口に日和大橋(高さ約 17m)がある。

- 20 最大入港船舶 2019 年 4 月 12 日、客船ダイヤモンド・プリンセス(115,875t、喫水 8.5m)が、雲雀野中央ふ頭に着岸した。

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、石巻港船舶津波・台風等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防

鶺ノ尾崎付近対景図

南東方から鶺ノ尾崎を望む



大熊～殿上崎付近対景図

小良ヶ浜灯台沖から東大森～水石山付近を望む



5



鶺ノ尾崎～塩屋崎 (海図 W1098)

概要 鶺ノ尾崎～塩屋崎の約 50M間の海岸は、ほぼ南北に走り著しい出入りは全くなく、所々に砂浜を伴ったがけ海岸が続いている。内陸には、阿武隈高地が連なっているが顕著な山はなく、また、顕著な岬角もない。10m等深線は、距岸 0.5～1Mにある。

10

この沿岸には、大型船の避難できる港湾はないが、小型船、漁船の避難できる港湾としては、久之浜港、四倉港 (37° 06' N 141° 00' E : 海図W1096) (港則法適用港) (JP YOT) 及び請戸漁港 (37° 29' N 141° 03' E) がある。

目標

地物名	概位	備考
煙突	37° 39.9' N 141° 00.9' E	高さ 221m、火力発電所構内
塔	37° 31.1' N 141° 01.9' E	気象観測用、高さ 168m、赤白塗、赤灯あり、顕著
3 煙突	37° 14.0' N 141° 00.6' E	高さ 246m・247m・200m、各クリーム色、火力発電所構内

15

注意——塩屋崎の北東方約 23M、距岸約 10M (37° 18' 38" N 141° 15' 47" E) に浮体式風力タービン (浮体部黄色塗、黄灯付き) 及びその西方約 1M (37° 18' 39" N 141° 14' 24" E) に浮体式サブステーション (浮体部黄色塗、黄灯付き、音響信号器付き) が設置され、西南西方の広野火力発電所付近陸岸

に至る間に海底線（電力等）が敷設されている。いずれも AIS 信号を常時発射している。付近航行船舶は各施設から 1M 以上の離隔距離を確保して航行すること。

久之浜港 (37° 09' N 141° 00' E) (海図 W1415)

- 5 **概要** 殿上埼の北西側にある。同埼から北方へ延びる東防波堤と北岸東角から南東方へ延びる防波堤とに囲まれた泊地で、西岸に外防波堤に囲まれた 2 船だまりがある。東防波堤の東に南防波堤があり、さらにその北東に沖防波堤がある。

泊地内の水深は約 2~5m で、南東寄り以外の風ときは、安全である。冬季西寄りの風が卓越するときには、約 80 隻の漁船及び小型船が避泊するという。

航泊禁止 第 3 区の横須賀港第 5 号灯浮標南方に航泊禁止区域（海上自衛隊の艦船を除く）があり、同区域内には、多数の係船用ドルフィンがある。

港湾施設

名 称	概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考
新港ふ頭	1・2号栈橋	35° 17.1' N 139° 40.6' E	180	5.5	2,000×2
	3号栈橋	35° 17.1' N 139° 40.7' E	130	7.5	5,000×1

上表のほか、小型船が利用する物揚場、栈橋がある。また、会社、海上自衛隊及び米軍の各専用の係船施設がある。

5 **入港上の注意** 住友重機械工業(株)横須賀製造所(35° 19.5' N 139° 39.5' E)東側の東北防波堤及び東防波堤は、一部破損しており、干出となる部分がある。

係船浮標 第 1 区、第 2 区に多数の係船浮標がある。

錨地 検疫錨地は、東北防波堤北東側の第 4 区内にあり、危険物積載船錨地は第 4 区に指定されている。

10 **台風・津波対策** この港では大規模な海難及び海上災害を未然に防止するため横須賀地区海上災害等対策協議会を設置し、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒態勢・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している（問合せ先：横須賀海上保安部）。

引船・通船 引船・通船がある。

補給 長浦で清水の補給ができる。

修理

造船所名	電話番号	備 考
住友重機械工業(株)横須賀製造所	046-869-1846	
京浜ドック(株)追浜工場	046-865-3141	

15 **医療施設**

名 称	電話番号	備 考
横須賀共済病院	046-822-2710	

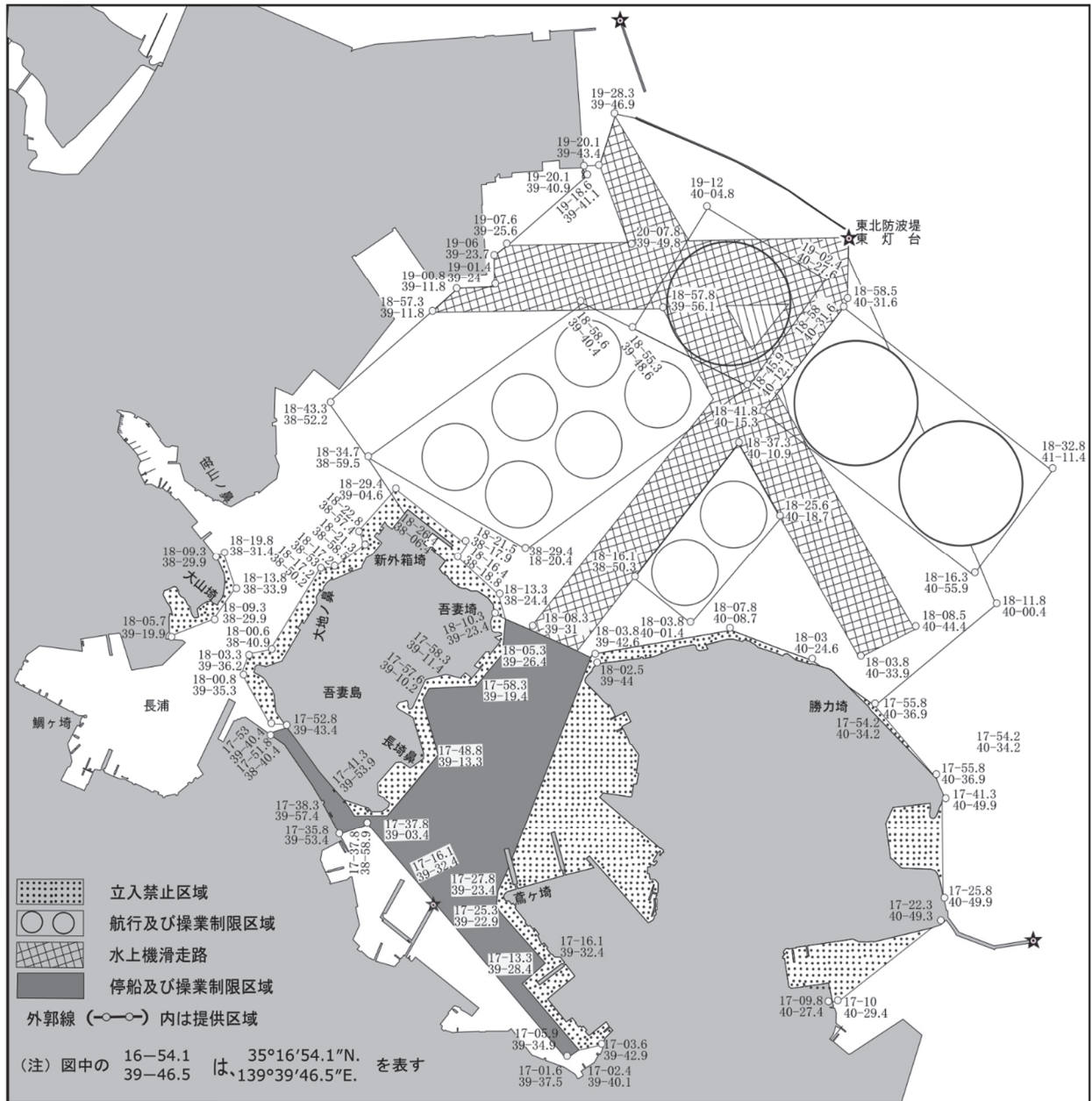
海上交通 関門港との間にカーフェリー便(17,400t 等)がある。

20

25

30

第 43 図 横須賀港米軍施設水域図【図の差し替え】



第 5 区 (海図 W91、W1083)

概要 観音崎から日の出町前面の埋立地までが、第 5 区である。平成町、日の出町、稲岡町（第 3 区）
5 一帯を横須賀新港と称している。

港湾施設

名 称	概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考	
新港ふ頭	1・2号岸壁	35° 17.0' N 139° 40.7' E	400	9~9.5	15,000×2	フェリー
	3号岸壁	35° 16.8' N 139° 40.7' E	240	4	700×4	
	4号岸壁	35° 16.7' N 139° 40.8' E	65	4	700×1	
平成ふ頭	1号岸壁	35° 16.4' N 139° 41.1' E	120	4	700×2	
	2号岸壁	35° 16.4' N 139° 41.2' E	270	5	2,000×3	

医療施設

名 称	電 話 番 号	備 考
国際医療福祉大学熱海病院	0557-81-9171	

海上交通 初島との間に、高速船便（271t等）があり、期間限定で大島及び神津島との間に定期旅客船便、ジェットfoil便（176t等）がある。

5

伊東港 (34° 58' N 139° 06' E) (海図 W1042) (JP ITJ)



(2018年12月撮影)

概要 伊豆半島東岸にある、港則法適用港である。北東方へ大きく開いた開湾でうねりも多いが、防波堤内は穏やかで、船舶は安全に停泊することができる。しかし、北東風が15m/s以上になると、船舶は真鶴岬西方の吉浜沖の泊地へ避泊するという。この港は漁業基地であるとともに、観光、温泉地を背後に控えた観光港として整備されている。港の北西岸にマリーナ (34° 59.1' N 139° 05.7' E) がある。

10

目標

地物名	概 位	備 考
ネオン灯	34° 57.9' N 139° 05.3' E	赤色、ホテル内、夜間は最も顕著

港湾施設

名 称	概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考
観光棧橋	34° 58.3' N 139° 06.2' E	100	東側 7.5 西側 3.5	2,000×1	
玖須美耐震岸壁	34° 58.3' N 139° 06.1' E	80	4	—	
玖須美第2物揚場	34° 58.3' N 139° 06.2' E	140	3~4	700×1	漁船用
南岸壁	34° 58.3' N 139° 06.4' E	270	2.5~4	700×4	
第1新井岸壁	34° 58.4' N 139° 06.4' E	125	3.5	700×2	前面海域に係船浮標がある。

15

最大入港船舶 旅客船 はまゆう丸 (882 t、喫水 3.6m) が観光棧橋に着岸したことがある。

海事関係官公署

官公署名	連絡先
下田海上保安部伊東事務室（伊東マリンパトロールステーション）	0557-35-3085

補給 清水、燃料油及び氷の補給（60 t 以下の漁船のみ）ができる。給油船がある。

修理 船架が 5 台あり、最大 130 t のタンカーを上架できる。

5 医療施設

名称	電話番号	備考
伊東市民病院	0557-37-2626	

海上交通 期間限定で熱海と大島の間、ジェットフォイル便（176t 等）がある。

爪木埼～石廊埼（海図 W84、W1075）

10 概要 この間の海岸は、屈曲が多く沿岸一帯に小島、岩礁が散在する。

手石港（34° 38′ N 138° 54′ E）（港則法適用港）（JP TIS）の港口は南東方へ開き、港内は狭小なうえ岩礁が多いので、好錨地とはいえない。

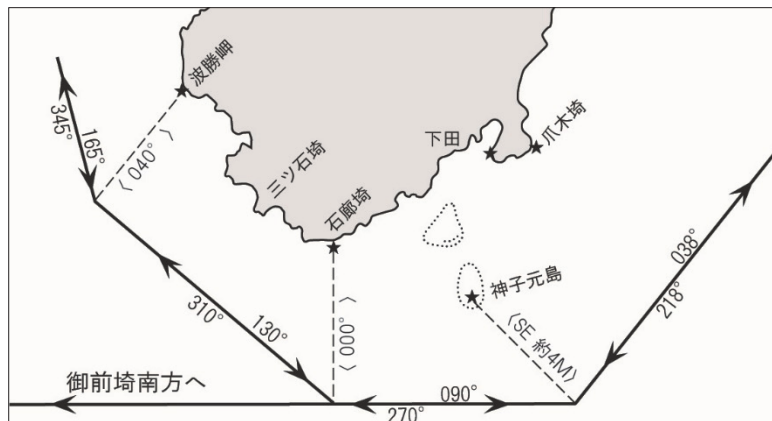
目標

地物名	概位	備考
神子元《ミコト》島	34° 34.5′ N 138° 56.5′ E	茶褐色の岩の子島、高さ 33m、灯台がある。

15 針路法（第 44 図参照）

- 1 伊豆大島の北西海域から針路 218° で神子元島灯台の南東方約 4M に向かう。
- 2 同灯台を 320° に見て、針路 270° とする。
- 3 石廊埼灯台を 000° に見て、針路 310° とする。（以後、本章第 2 節 駿河湾針路法の項、240 ページ参照）

20 第 44 図 石廊埼付近針路法図



第 3 節 その他の諸島

沖ノ鳥島 (20° 25′ N 136° 05′ E) (海図 W49)

概要 東西の長さ約 4.5km、幅最大約 1.7km の長だ円形をした環礁である。

5 礁湖内の水深は 1~5m であるが、全面に無数の浅水のさんご礁が散在しており、同環礁の外縁を取巻くように干出部 (干出約 1m) がある。環礁の西端付近には北小島 (高さ 1m) があり、その東方約 0.7M に東小島 (高さ 0.9m) がある。

10 **目標** 北小島と東小島との中間付近に観測施設が設置されている。同施設 (北西端に沖ノ鳥島灯台 (20° 25.4′ N 136° 04.6′ E) がある。) は、沖ノ鳥島の初認に有効で昼間の視界良好時には約 14M 沖合から視認できた (眼高約 9m)。

港湾施設 環礁の西部南側に礁湖内に通ずる幅約 15m、水深約 6m の水路があり、低潮時には約 0.3M 沖合から識別 (水路は薄青色、環礁外縁は茶褐色) できる。

15 ボートによるこの水路への進入は、南~南西の風が 10m/s 以上又は南寄りのうねりが 3 以上の場合は、困難である。その水路の北北西方約 310m には、コンクリートブロック造 (直径約 40m) の構造物があり、高潮時には冠水して波紋を生ずる。

航行上の注意 ~~南南東約 0.1M に沖ノ鳥島沖 GPS 波浪観測灯浮標 (20°24.1′ N 136°06.6′ E) がある。~~

沖ノ鳥島は周囲が急深であり、砕波する環礁外縁と薄緑色の環礁内部とにより外洋と識別されるが、距岸 2~3M まで接近しないと視認は困難であった (眼高 9m)。

20 また、レーダでは確認が困難であり、海上平穏な場合は約 5M 沖合から環礁外縁の破浪の映像を得るが、スコールや漁船と見誤ることがある。したがって、船舶は沖ノ鳥島を十分に離して航行した方がよい。